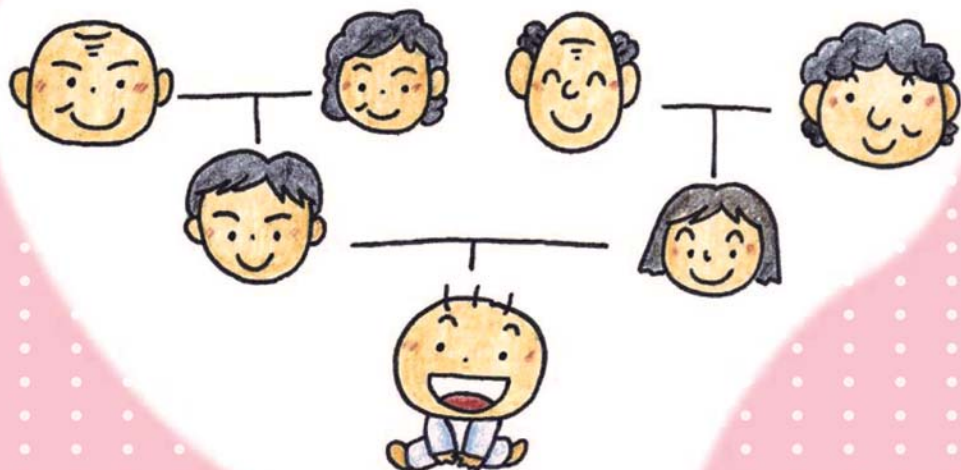


孫育てガイドブック

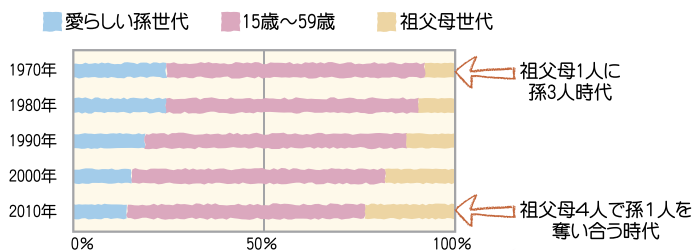
～孫でマゴマゴしたときに読む本～



おめでとうございます!!

お孫さんがうまれて、『おじいちゃん・おばあちゃん』になることができたあなた・・・今や、孫は貴重な存在だということをご存じですか。

《岐阜県の年代別人口推移》



こんな時代になって、孫に出会う機会が減ったためでしょうか、ぎふ子育て支援サポートセンターでも『孫育て』に関する相談が増えてきました。

現代は、祖父母世代が子育てをした時代とは、育児環境も育児技術も大きく変わったため、「今の子育ての方法がわからない」という声は少なくありません。

また、「親世代と、どういふ付き合い方をしているのか困ってしまう」という人間関係の相談も、たくさん寄せられます。孫をめぐる「娘夫婦との関係が悪くなってしまった」とか、「いろいろ言いたい事はあるけれど、じっと我慢している」という祖父母世代の悩みも、めずらしいことではありません。『舅・姑(今どきの若いママは義理父・義理母と表現)問題』も絡んできて、ちょっとしたトラブルが大きな問題になってしまうことさえ起こっています。

この冊子は、『孫』や『その親たち(あなたの息子や娘・その配偶者)』と心地よい関係を築いていくためのガイドブックです。『孫』というすばらしい存在と楽しく付き合っていくための手がかりになれば幸いです。



知っておきたい 今どき育児



● 妊娠期	3
● 出産期	7
● 乳児期	11
● 幼児期	21
● 学童期	31
● ここが危ない!!	37
あなたの家の危険度チェック	
● 子育て世代に聞きました	41
言われて・されて うれしかったことイヤだったこと	
● 祖父母世代に聞きました	43
言われて・されて うれしかったことイヤだったこと	
● 子育て支援（孫育てバージョン）	45
祖父母世代も利用できる相談窓口	
地域の子育て支援は あなたの力を求めています	
おわりに	51

知っておきたい 今どき育児 “妊娠期”



♥ 産院で診察を受けるのも、
赤ちゃんを出産するのも『ママ』です

産院選びも出産方法も、ママの希望を最優先。「よかれ」と思っても押しつけは禁物です。

♥ 「赤ちゃんの分もしっかり食べなきゃ」というのは、
粗食時代のなごりです

ママは、お医者さんや助産師さんと話しながら、ちゃんと考えているので大丈夫です。

♡ つわりの辛さに寄り添ってあげましょう

「つわりは病気じゃないのだから…」と励ますつもりで言ったことが裏目に出ることもあります。「おかあさんの〇〇なら食べられそう」というリクエストがあったら、腕をふるいましょう。

♡ ほとんどの妊婦さんが、お腹にサラシは巻きません

お腹の保護にベルトタイプのものを使う人もいますが、何も使わない人もいます。しかし、サラシを巻いてみたいという妊婦さんもあるので、「どうやって巻くの?」とたずねられたら、巻き方を伝授してあげてください。

♡ 「女の子?」「男の子?」知りたくてもガマン、ガマン

今は、おなかにいるうちに性別がわかる場合が多いので、気になりますよね。でも、親の方から報告があるまでは、そっとしておきましょう。生まれるまで性別を聞かないと決める夫婦もあります。

♡ 育児用品を選ぶ楽しみを親から奪わない

生まれてくる「孫」のために、あれもこれもと買ってあげたくなるものです。けれど、若夫婦も自分たちなりの育児を考えているかもしれません。そっと見守りましょう。「〇〇が欲しいんだけど…」と言われたら、その代金を渡すのがいちばん賢いやり方かもしれません。

♥ 妊婦には“あぐら”がオススメです

昔と違って、椅子の生活が多い若いママは、畳の生活のような「骨盤を開く姿勢」がとりにくいものです。その点、あぐらをかくのは骨盤を開くにはよい姿勢なので、行儀が悪いようですが、妊娠中は大目に見ましょう。

♥ 「予定日」が近づいても 「まだ生まれないの？」は禁句です

善意の言葉だけに、ママにはプレッシャーです。いちばん不安なのはママ自身なので。「困っていることはない?」「あせらないでね。赤ちゃんが一番いい時を選んで生まれてくるのだから。」という、ママを支える言葉を心がけましょう。

♥ 出産前後をどこでどう過ごすかを決めるのは親です

出産前後の過ごし方は、いろいろです。『臨月になったら里帰りして実家近くの産院で出産、産後1ヶ月ぐらいは実家で』『出産までは自宅、退院後に里帰り』『里帰りはしないで、退院後に手伝いに来てもらう』『里帰りせず、手伝いも頼まず、夫婦で乗り切る』…どれもあります。親たちが考えて決めることを尊重して、手助けができればいいですね。

けれど、無理なら断ることも必要です。労力の援助はできないけれど、最近のいろいろなサービス（産前産後期ヘルパー等）を利用する資金援助ならできるということもあるでしょう。

産前産後期にヘルパー派遣をしてくれるサポートがあります。

時間帯や費用、サポート内容などは、施設によって違いますので、直接おたずねください。

《市町村等が実施しているサービス》

- 👉 関市 ☎0575-24-1311
- 👉 恵那市 ☎0573-26-2111（内線 226）
- 👉 大垣市 ☎0584-74-8080

妊産婦の病院への送り迎えには「子育てタクシー」があります。

子育てタクシーは、妊産婦の病院への送迎、保育園や学校、塾や習い事などの送迎や、乳幼児連れの外出のサポートなどを行うタクシー事業者による子育て応援サービスです。ご利用料金は、通常のタクシー料金と同じです。

《お問い合わせ：岐阜県少子化対策課 ☎058-272-8077》



知っておきたい 今どき育児 “出産期”



♥ 夫の立ち会い出産の割合が増えています

ここ数年は、5割以上の夫が立ち会っています。立ち会いたかったけれどできなかったという人を合わせると、7割以上になります。陣痛～分娩まで、「主役」は産婦さんとその夫。祖父母の役割は、大仕事に取り組む二人のサポーター。「まだ?」と聞きたい気持ちをおさえて、親からの連絡を待ちましょう。

♡ 産院へのお見舞いは短めに

産婦さんは大仕事を成し遂げて疲れています。「メイクをしていない状態で人に会いたくない」という人もいます。お見舞いが無いのも寂しいけれど、多すぎたり、長すぎたりするのは考えもの。もうちょつといて欲しいと思われているうちに退室するのがコツです。もちろん、風邪気味の時はどうなに行きたくてもガマンしましょう。

♡ 「赤ちゃん、抱っこしていい？」と聞いてから

やっと出会えたかわいい孫！ 産院ですぐに抱っこしたいと思うのは当然です。でも必ず“なり立てママ”の意向を聞きましょう。ホルモンの影響で、ママの感情のアンテナが敏感になっています。誰にも赤ちゃんを触られたくないという気持ちになることもあるのです。

♡ 赤ちゃんの名付けは、親に任せましょう

おなかの中にいるときから、ああでもない、こうでもないとい生懸命考えた結果です。あまりにも「個性的な」名前でも、親としての最初の決定事項に口を挟むことはやめておいた方が賢明です。「この中でどれがいい？」とたずねられるチャンスに恵まれる祖父母は、それほど多くはありません。

♥ 何でも手伝ってしまうのは考えもの

赤ちゃんの世話は、できるだけ親に任せましょう。ぎこちなくて危なっかしくて、手や口を出したくなるのは当然ですが、練習しないと上手にはなりません。「親」が「親」になっていく大切な時期です。

♥ じっと見つめないでください

生まれたばかりの赤ちゃんが、一生懸命おっぱいを飲んでいく表情は、本当にかわいいものです。でも、いくらかわいくても、授乳中の様子をじっと見つめないでください。ママは（たとえ実父であっても）男性の視線が気になるものです。

♥ 行事の主体は、赤ちゃんとお母さんです

かわいい赤ちゃんの顔を見ると、お宮参りの着物とか、盛大なお七夜祝いを、と思う方もあるでしょう。また、親戚や近所付き合いなどの事情もあるでしょう。でも、どんなお祝いをどんな形でするかは、親が決めることです。

双方の実家の思惑が入り乱れて、せつかくのお祝いが辛いものにならないように、上の世代が気をつけてあげられるといいですね。

♥ 乳幼児のチャイルドシート使用は義務です

産院からの退院時でも、赤ちゃんはチャイルドシートに乗せます。「かわいそうだから抱っこして…」というときに、他の車がぶつかってきたら取り返しがつきません。

INFORMATION

お見舞いに何を持っていくか、悩みますね。



豪華な食事が売り物の産院だと、これ以上食べ物は必要ないし、日持ちのしないものは困るし…。水分補給のためのペットボトルは重宝されるようです。

里帰り出産でお世話になった“嫁の実家”への「お礼」をどうしようかという悩みをよく聞きます。「うちの孫」「娘の子ども」という意識が絡み合っただけの問題になることがあります。「お世話になりました。」という感謝の気持ちをどんな形で表すか、まず、当事者の夫婦の考えをたずねてみましょう。



知っておきたい 今どき育児 “乳児期”

♥ イクメン（育児を楽しめる格好いい男）のススメ

イクメンとは、子育てを楽しみ、自分自身も成長していく男性のことです。

「育てる男が 家族を変える 社会が動く」ということで、厚生労働省が、『イクメン プロジェクト』を立ち上げました。

URL : <http://www.ikumen-project.jp/index.html>

母方のおばあちゃんへ

手を出しすぎて、パパの役割を奪っていませんか。子育ての主役はパパとママ。何でもやってしまったら、パパの技術はいつまでたっても向上しません。



父方のおばあちゃんへ

息子が台所に立ったり、オムツ換えに奮闘する場面を見て、かわいそうだと思っていませんか。父親としての自覚は、赤ちゃんともふれあうことで生まれてくるものです。息子の努力を応援しましょう。

♥ 時代の変化に柔軟に

20～30年前に比べて、育児のしかたがずいぶん変わってきました。医学的に見直されてきたことも多くあります。自分たちの経験と違って、とまどわれることもあるでしょう。こうした時代の変化を受け入れる度量が21世紀の祖父母には必要です。

♥ 解熱剤では病気は治りません

発熱は不快な症状ですが、一方では生体防御反応ですから、薬で発熱をおさえると治りが遅くなる場合もあります。しかし、薬の効果で熱が下がっている間は少し楽になって、水分や睡眠が取れるので、解熱剤を使うこともあります。

「高熱が続くと、頭がおかしくなるのでは…」と心配されますが、脳が侵されると恐れられている髄膜炎は、熱が原因ではなく、細菌が髄膜に入って起こるものです。

発熱は2～3日は続きますが、高熱でも元気そうなら解熱剤は必要ありません。熱の上がりはじめは寒がるので温かくしますが、熱が上がりきったら保温はやめて、冷却シートなどを使い気持ちよくしてあげましょう。汗をかかせても熱は下がりませんし、かえって体力が落ちてしまいます。

熱がある時は、水分が取れていれば心配ないので、栄養の事は考えないで、欲しがるものをあげてください。

♥ 言われて一番傷ついた言葉は「おっぱい、足りていないんじゃない？」

赤ちゃんが泣きやまないと、つい言ってしまいがちですが、ただでさえ不安な新米ママを余計に不安に陥れる言葉です。赤ちゃんの泣く原因は空腹だけではありません。「そんなにいつもやっているから出ないのよ」もNG。今は、3時間あけるのではなく、泣くたびに吸わせるように指導されます。

♥ 沐浴は大仕事、積極的に手助けを

まだ首がすわっていない赤ちゃんを抱いて洗うのは、体力と慣れが必要です。ベビーバスの準備にも人手があった方が楽です。

昔は沐浴の後、ベビーパウダーをつけたものですが、パウダーが毛穴をふさいで湿疹の原因になりやすいので使わなくなっています。むしろ、保湿のためのローションが使われています。

♥ 便利な育児用品がいろいろ

哺乳瓶を煮沸消毒していたころには考えられなかったさまざまな便利グッズが出ています。こういうグッズは「こんな機能があれば」「こんなデザインならかわいい」というママの願いをかなえるべく開発されたもの。まずは一緒に試してみてください。思わず感心してしまうものもありますよ。

♡ お風呂上がりの『湯ざまし』、そして『日光浴』

どちらも、赤ちゃんといえば当然の『常識』でしたが、今は違います。お風呂上がりには、母乳だけで十分。ミルクの場合は1ヶ月を過ぎて赤ちゃんが欲しがらるようなら湯ざましを、という指導です。

また、紫外線による皮膚ガンからのリスクから、赤ちゃんを裸にして日光浴をさせる必要はない、となっています。直射日光の強い時間を避けてのお散歩は、赤ちゃんのためにも必要です。赤ちゃん用のUVカット剤もあります。

♡ 抱っこで心の安定した子に

泣いてすぐ抱くと「抱き癖がつく」と言われていましたが、それは、抱いていたら仕事ができなかったから。最近では、抱かれた子どもほど情緒が安定し、自立も早いとされています。赤ちゃんはママに抱っこされるのが大好きですが、ママでない人にも抱かれることで多くの刺激を受け、さまざまな感覚が目覚めていきます。泣きやまない子の抱っこで親が疲れているときこそ出番です。ただし、新米ママより上手に抱いて、赤ちゃんが泣きやんでも、「ほらね」と自慢しないこと。「育児技術」は経験の積み重ね。ママもすぐに上達します。

(抱っこ用の便利グッズも、いろいろ出ています)



♥「離乳」開始の目安は5～6ヶ月から

2007年に、3～4ヶ月になったら果汁を薄めて飲ませる、ということが見直されました。新しい指針^(※)にのっとり『離乳』に取り組もうとしている親と『祖父母の常識』がぶつかっています。

5、6ヶ月になると、スプーンなどを口に入れたときに舌で押し出すことが少なくなり（哺乳反射の減少）、大人が食事をしているところをじっと見て欲しがる子が増えてくるので、開始にいい時期だとされています。アレルギーなどの関係から、牛乳や卵は、様子を見ながらゆつくりと。

(※『授乳・離乳の支援ガイド』厚生労働省)

♥ハチミツは、1歳を過ぎてから

自然界にはどこにでもボツリヌス菌という細菌が存在します。熱処理等の加工をしないハチミツには、ごくまれにこの菌が入り込むことがあります。1歳以上になれば腸内で繁殖しないので問題ないのですが、腸内細菌の少ない乳児には、ハチミツを食べさせないように指導されています。



♥「虫歯（ミュータンス）菌」「ピロリ菌」感染!!

生まれたての赤ちゃんは持っていない細菌です。どちらも保菌者である周囲の大人の唾液を通して感染します。ミュータンス菌もピロリ菌も絶対に持っていないという自信のない方は、十分注意が必要です。

大人が噛み砕いて食べ物を与えるのは感染の可能性がきわめて高いので危険です。自分が使った箸やスプーンで赤ちゃんに食べ物を与えることも避けましょう。

♥心とからだによい食生活を

レトルトや瓶詰めの離乳食を食べている孫を見ると、「手作りすればいいのに」と言いたくなりますよね。愛情込めた手作りの離乳食は、食育上も大切なことです。

しかし、時間をかけて作っても、赤ちゃんが必ず食べてくれるわけではありません。楽しいはずの食事の時間が、親子にとってストレスとなってしまう場合もあります。どんなに体によくても、ストレスになっては困ります。育児には手抜きも必要ですし、最近のベビーフードは種類も豊富で、材料も吟味されています。

「手作りのよさを味わわせたい」という料理自慢の方は、遊びに来てくれたときがチャンス。手間暇かけた煮物（ただし薄味で）や自家菜園の野菜を食卓に出してみましょう。何よりも、食べる様子をニコニコとうれしそうに見てくれる人の存在は、赤ちゃんに食べることの楽しさを感じさせるでしょう。

♥ 着せすぎに注意

1枚余分に着せたいと思ったり、靴下をはかせたいと思ったりするのは、寒い室内を経験してきた祖父母世代の感覚です。快適な室温の中で過ごしている今の赤ちゃんたち。着せすぎで「冬のあせも」を作る子がいるくらいです。「背中を触って汗ばんでいたら、1枚脱がせる」というおばあちゃんの知恵の出番です。

靴下も、室内ではいりません。床の材質の関係で、滑ってかえって危険です。寝返りやハイハイにチャレンジ中の赤ちゃんにとっても、靴下は身体の動きを妨げる存在。手足での体温調節の妨げにもなります。

♥ おじいちゃん、おばあちゃんに人見知り

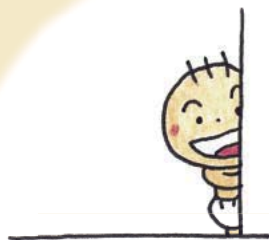
久しぶりに会った孫を抱こうとしたら大泣き…がっかりですね。しかし、「人見知り」は発達の大変な過程。知恵が付いてきた証拠です。この時期は無理に抱こうとしないで、ママに抱かれている赤ちゃんをあやす程度にとどめましょう。ママの腕の中にいる赤ちゃんが周りをきよろきよろ見回すようになってきたら、そろそろ大丈夫です。

ただ、声も低くて、いかつい顔のおじいちゃんは、しばらくかかるかもしれません。けれど、警戒しながらでも気になってちらちら見ているようならもうすぐです。「この人は、安心できる人」とわかれば、抱っこをせがまれて大変になるのも間近です。

♥ 見つめて、さすって、語りかけて

まだ首がしっかりしていないころの赤ちゃんでも、そばに座って目を合わせると、こっちをじっと見つめてくれます。服から出ている足や手をそつとさすりながら「いい子だねえ」「大きくなあれ」と思わずつぶやくことはありませんか？ 何十年前に、その子の親にもやったこと。そしてたぶん自分が赤ちゃんだったときにやってもらったこと。

人は、されたことをするようになるといわれています。無意識に繰り返されてきた「皮膚接触」。皮膚が脳につながる神経系の末端だということがわかってきて、最近その重要性が見直されています。



♥ 赤ちゃんはくり返しが大好きです

「いないないばあ」「どっちの手に持ってるか？」等々、お座りができるようになった子は何度でもやってもらいたがりです。親は「これで最後ね!」と切り上げたがりがち。そういうときこそ祖父母の出番です。「ばあ〜」と物陰から顔を出すだけで満面の笑顔で喜んでくれるこの機会を逃す手はありません。100%相手ができることこそ、祖父母の醍醐味です。

♥ 祖父母の家は危険がいっぱい

ふだん赤ちゃんのいない家は、床や棚に危険なものが無造作に置いてあるものです。孫が来るときは、必ず部屋の危険物は片付けましょう。タバコの煙も危険物。「実家は危なくて、連れていくのをためらってしまう」という声もよく聞きます。

テーブル上の灰皿や薬やピーナッツ、コンセントやコード類…赤ちゃんが安全に過ごすためにはどうしたらいいか、事前に親にも確かめておきましょう。

♥ 連絡はまず、携帯メールで

電話は便利な道具ですが、赤ちゃんがいるときは結構迷惑な存在…授乳中だったり、オムツをかえていたり、寝ついたばかりだと、母親が「イラッ!」とすることがあります。

落ち着いたらゆっくり見られる携帯メールを活用しましょう。折り返しの返事は期待しないで…。

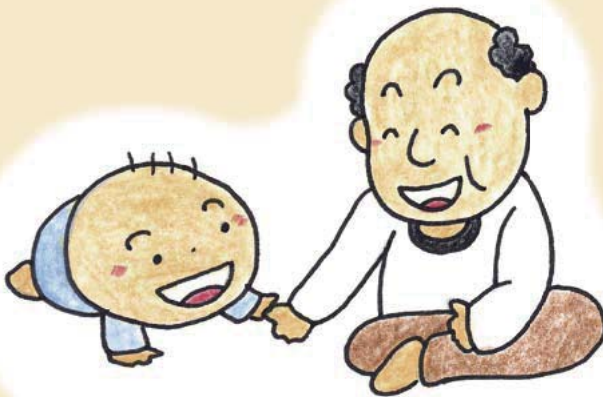
♥ こちらの都合もちゃんと伝えましょう

「祖父母に子どもを見てもらって、ちょっと休みたい」という親の気持ちはよく分かります。でも、「祖父母は孫を、いつでも大歓迎に違いない」と思いこんでいる親もいます。だからこそ、疲れたり、自分の用事があるときは、「今日は預かれない」とか「2時間だけね」とはっきり伝えましょう。無理をすると不満がたまって、関係が悪くなりがちです。

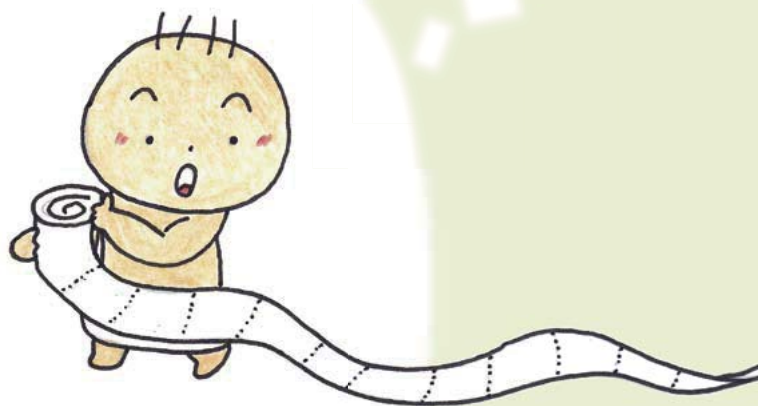
【ソフリエ】

1人で子育てができる祖父のことです。「NPO法人エガリテ大手前」が、ソフリエの資格認定講座を開催しています。抱っこや寝かしつけ、沐浴など実技を交えた講座で、「基本編」「日常編」などすべて履修すると、『ソフリエ』として認定されます。

最近、孫の面倒を見る、または見なければならぬ祖父母が増えていますが、どうしても、子育て経験のある祖母に負担がかかりやすいため、ソフリエ講座で祖父力をつけて、子育てにかかわってもらおうことを目指しています。



知っておきたい 今どき育児 “幼児期”



♥「オムツ」はいつかは取れるもの

トイレトレーニングでイライラしている親に、「オムツをして小学校へ行く子はいないのだから」と、子育ての先輩として助言できるチャンスです。洗濯が大変だった昔は、1歳過ぎるとオムツはずしを始めたものですが、最近は2歳過ぎてから始める場合が多いようです。3歳近くになると、親も焦ってくるので、そんなときに「大丈夫、いつかは必ずとれるのだから」と声をかけてあげましょう。

♥「まだ〇〇できないの?」という何気ない一言に…

若い親たちは深く傷ついています。なぜなら、自分も不安でたまらないのですから。発達の早い子もいれば、ゆっくりの子もいます。それをわかっているはずの祖父母も、遠い昔のことで、つい忘れてしまっていることが多いようです。

1歳のお誕生ごろに歩けるのは約半数。でも1歳半健診のころにはほとんどの子が歩けるし、早く歩き出した子と遅かった子の見分けはつきません。他の子と比べられるのは、親にとっていい気がしないもの。言葉に出すのは御法度です。

♥『卒乳』と『断乳』は違います

『卒乳』は子どもが自然に母乳を欲しがらなくなって授乳をやめること、『断乳』は親の判断で母乳をやめることです。今は『卒乳』という考え方が主流になっています。

赤ちゃんは成長や発達などによって、母乳を必要としなくなる時期がそれぞれ違うので、母乳をやめる時期もいつとは決められません。子どもがいらなくなったときにやめるのが理想ですが、実際にはおっぱいが出なくなったり、夜間授乳が続いてママが疲れてしまったり、次子の妊娠予定があったりすると、やめるきっかけになります。

昔は栄養価・虫歯などの観点から、『断乳』がすすめられていたので、いつまでも授乳していると心配になると思いますが、最終的な判断はママにまかせて、ママの気持ちを支えてあげましょう。



♥ してはいけないこと、危険なことをしたときには、きちんと叱りましょう

叱られても意味がわからない10歳児は、危ないものはそばに置かない、という環境整備が先ですが、1歳ごろになると大人の言葉をだいぶ理解できるようになってきます。危険を伴うことをしたときは、毅然とした態度できっぱり「いけません」といみましょう。いつも優しい祖父母とは違う表情や声のトーンで、これはダメなことなんだな、とわかっていきます。孫に嫌われるのがイヤで、「そんなことしたら、ママに叱られるよ」「パパがダメだって言うからできないよ」という注意では、子どもに善悪を教えることができません。

♥ 祖父母の車でも、必ずチャイルドシートに乗せること

乳幼児の交通事故（同乗時）が増加したため、2000年から6歳未満の幼児のチャイルドシート着用が法律で義務づけられました。祖父母の車に乗せるときももちろんです。親の車からチャイルドシートを載せかえるのが面倒といわずに必ず装着してください。孫に何かあったら、一生悔やんでも悔やみきれません。

♡ 心配でも「言葉が少し遅いんじゃない?」と 言わない

言葉の発達は、個人差が大きく、1歳ころから少しずつ単語を話す子もいるし、3歳近くまで言葉を全部頭にしまっておいて、突然一気に話し始める子もいます。でも、ゴールは同じです。子どもが話す・話さないに関わらず、周りはいっぱい語りかけてあげましょう。

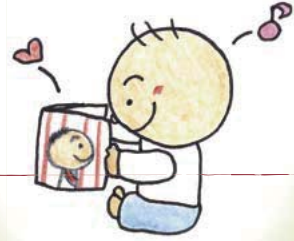
♡ 「食べさせて欲しくないもの」 「食べさせては困るもの」

親がそう判断したものは子どもに与えないことです。「これくらいなら」「こんなに欲しがるんだから」と食事前に与えて、ご飯が食べられなくなると、親とのトラブルになります。また、アレルギーの関係で与えてはダメな食品がある子どももいます。少しだから大丈夫だろうと思っても、アレルギー反応が引き起こされて、大変なことになることもあります。



♥ 夜の寝かしつけに「お話」を

孫を寝かしつけるチャンスのある方にオススメなのが「むかしむかし、あるところに…」というお話です。孫の名前や親の名前を入れて脚色したり、「新作」を語ったりするのもいいですね。昔から、「語り部」は年寄りの役割でした。



♥ 祖父母ならでこそその「遊び」や「おもちゃ」を

最近では、電池などで勝手に動くおもちゃが多いのですが、実は、子どもには昔ながらの「自分で何かをしないと遊べないおもちゃ」の方が適しているのです。また、最近は不器用な子どもが多いので、手先を使う昔の遊びが今、注目されています。コマや剣玉、お手玉にあやとり、そして折り紙。散歩に出かけて、小石を拾ってみたり、タンポポの綿毛をふいてみたり、そんなことも子どもにとっては楽しい遊びです。

「服や靴が汚れるから」「手が汚くなるから」と砂遊びや泥あそびをやらせてもらっていない子どもも増えています。水たまりやどろんこで遊ばせてやれば、子どもは大喜びします。孫がかわいくて、欲しがるおもちゃを何でも買ってしまおうと、親から迷惑がられることもあるので、「これ、買ってやりたいけれど」と親に一言聞いてみることも大切です。

♥ 祖父のための「外遊び研修」メニュー

自分の子育て期には仕事が忙しくて、幼児の扱いになれていないまま孫を迎えて、何をして遊んでいいのかわからない人も大勢います。まだ上手にお話のできない1歳前後だと余計にとまどいがち。やったことがないことを急にやれだの下手だの言われたら、おもしろくないのは当然。でも、「今どきジージ」ならすぐにコツをつかめます。

- 【1日目】まずは見学。孫と親がどんなことをしているのかを観察。ボールのやりとりから始めてみましょう。
- 【2日目】孫が遊びだしたら、親はベンチで休息。すべり台やブランコの付き添いをしてみましょう。
- 【3日目】祖父と孫で先に公園に出かけるか、早めに親が帰宅するかして、祖父&孫だけの時間を作ってみます。

今は携帯で親を呼べるので、何かあっても大丈夫。たぶん、次からは祖父&孫の楽しい外遊びの時間が楽しめます。「祖父」の「地域デビュー」にもなります。



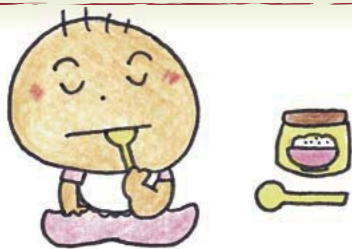
♥「育児なし」の父だったのに…

生き生きと「孫育て」をしている夫を見て、複雑な気持ちになる方もあります。自分の子どもの世話なんかなんにもしなかったのに…全部私に任せきりだったのに…と。つい嫌みの一つも言いたくなります。

言いたかったら言いましょう。30年遅れでも、子育ての大変さや辛さを夫に味わわせてくれた「孫の存在」に感謝しましょう。

♥『経験』があるからこそ、親の良きサポーター役に

2歳ころになると、「イヤ」「ダメ」という言葉を覚え、親の言うことを聞かずに、わがママを言う



ようになってきます。これは『自我の目覚め』で必要な成長の過程なのですが、親たちは喜ぶどころか「子育てが間違っていたのではないか」と不安になったりします。怒鳴ったり、たたいてしつけようとする親も出てきます。祖父母は、こややって成長していくのだということを知っていますが、経験のない親にはわからないことなのです。

そんなときこそ祖父母の出番です。不安な親に、「いい子に育てているよ。大丈夫だよ。」と声をかけてあげましょう。親だって、ほめられるのはうれしいものです。気分が良くなって、子どもとの接し方にもゆとりが出てきます。「育て方が悪い」と親を責めたりしたら、「子どものせいで、こっちが怒られる」と矛先が孫に向くことだってあります。

♥ テレビやビデオを見せておけば楽だけれど・・・

いくらかわいくても、疲れを知らない元気いっぱいの孫と遊ぶのは疲れます。ちょっと休むためにテレビやビデオは便利な道具です。しかし、テレビやビデオを長時間見ると子どものコミュニケーション能力や心身の発達が阻害されるおそれがあるということで、子どもの視聴時間を気にする親も増えていきます。

もしお家で、朝から晩までテレビをつけっぱなしにしているようなら、孫が来ているときは、大人のテレビ時間を少し減らすことも必要です。

♥ 応援したい ～仕事と子育ての両立～

子どもを預けて働きたいという女性が増えています。働かなくては生活していけないという社会情勢もあります。『育児休暇』や『病児保育』『ファミリー・サポート・センター』等、社会によるサポート体制も少しずつ整ってきています。

親が「子どもを預けて働く」という選択をしたら、それを応援してあげてください。どんなことを手伝ってほしいかを聞いてみましょう。保育園で急に発熱、子どもが病気でも会社を休めない、臨時の会議でお迎えに間に合わない等々、イザというときに祖父母は頼りになる存在です。

ただ、全部引き受けるのは、体力的にも精神的にもなかなか大変。「困ったときはいつでも遠慮しないでいつてね」という手助けのほうが長続きします。

♡ 応援したい ～二人目の妊娠・出産～

つわりの時期、上の子の食事の用意や外遊びが辛くなったり、母親の変化に敏感な子どもがやんちゃをいったりして大変なことがあります。また、出産後は『赤ちゃんの登場』で上の子が不安定になります。そんな時、祖父母のサポートがあるとママは大助かり。

でも、二人目がまだの夫婦に「いつでも手伝うから、早く次を生みなさいよ」とは言わないでください。いろいろな事情で子どもは一人と夫婦で決めていたり、二人目不妊だったり…二人目の話は慎重に。

♡ 絵本は、親と子、祖父母と孫の、心の架け橋

「どうして絵本を読んでやるのですか？」と親にたずねると、「自分が子どものとき、絵本を読んでもらってとても楽しかったから」と答える人がいます。

祖父母の家に、もしそのころの絵本が残っていたら、ぜひそれを孫に読んでやってください。『ぐりとぐら』『はらぺこあおむし』『いないいないばあ』『しろくまちゃんのほっとけーき』等々、やわらかくてあたたかい孫を膝に乗せ、絵本を読み出すと、何十年か前の光景がよみがえってきます。

「この本は、パパのお気に入りだったんだよ」「ママは、何度でもこれを読んでとittaのよ」…それが絵本の力です。膝にいる孫も、きっといつの日か、その本を子どもに読んでやるでしょう。

オススメの絵本

『はやくあいたいな』

五味太郎(絵本館)

おばあちゃんがだいすき! な女の子と、孫がかわいくてしかたがない! おばあちゃんのお話です。

『おじいちゃん』

J・バーニンガム(ほるぷ出版)

おじいちゃんと孫娘のなにげないやりとりを通して、「生」の意味を考えさせてくれるそんな絵本です。

『だじょうぶ だじょうぶ』

いとうひろし(講談社)

おじいちゃんと、さんぼにでかけよう。ゆっくり、のんびり、あるいていけば、ほら、ぼくらのまわりは、こんなにも、たのしいことがあふれてる。

『おばあちゃんが

ちいさかったころ』

J・ウォルシュ(評論社)

おばあちゃんがこどものころ、いろいろなものが、今とはちがってた。汽車や船、お店もね。でも変わらないものもある。



知っておきたい 今どき育児 “学童期”



♡ 孫の心のオアシスに

いよいよ小学校入学。「しつけ」だけではなく、親は子どもの「教育」でいろいろ悩むものです。子どものことが心配で、親が怒る場面も増えるでしょう。

三世代同居が多かった時代、親に怒られると、子どもは祖父母の部屋に逃げたものですが、核家族化が進み、今の子どもたちには昔のような逃げ場がありません。「甘やかさないで!」と親は言うかもしれませんが、子どもにとって「甘え」が受け入れられることは必要なことです。

親は、しっかり育てなきゃと思うあまり、肩に力が入って、ついつい厳しくなってしまいます。祖父母は、そんなときの『ちょっとした逃げ場所』…それが、子どもの心にとって必要なのです。

祖父母が甘いからといって、子どもが親より祖父母を選ぶということはありません。自分たちは孫にとっての「心のオアシス」だと思って、たっぷり甘えさせてあげましょう。

♡ 孫で「子育て」のやり直しはできません

わが子に「もっと、こうすればよかった」という思いが、孫に向かってしまう祖父母は少なくありません。しかし、自分の娘や息子が期待通りの進路を進んでくれなかったからといって、孫に期待するのはお門違いです。

「孫で、リベンジを！」という意気込みは、孫にとっても、あなたの子どもにとっても迷惑でしかありません。あなたの子育てた子どもを信頼しましょう。期待通りではなかったかもしれませんが、もう立派に『人の親』になっているのですから。

♡ 「ひとり旅」に挑戦!

歩いては行けない所に住んでいる祖父母の元へのひとり旅を受け入れてみませんか。公共交通機関を利用したひとり旅です。車での移動の多い昨今、電車やバスに乗る体験をしていない子どもたちも増えています。夏休みなどの“大冒険”になります。

- (1) 親と一緒に、利用交通機関に乗る予行演習
- (2) 切符をひとりで買う練習
- (3) 出発駅から到着駅までのルート図作製
- (4) 持ち物確認：自宅と行き先の電話番号を書いた連絡用メモ、多少の現金、水筒
- (5) 出発!

心配で携帯電話を持たせて逐一連絡…となりがちですが、親、祖父母ともにぐっとガマン。ひとり旅をやり遂げた孫を、「すごい!」「ちゃんとできたね」と迎えましょう。

♡ ほめて、ほめて、ほめましょう

子どもを伸ばすには、まずほめることが大切…と、ほとんどの親が頭ではわかっています。実際に、「よい習慣」は、叱られるより、ほめられた方が定着しやすいものです。けれど親はなかなかほめられません。親は子どもにいろいろな希望と責任があるので、どうしてもダメなところが目についてしまうからです。

その点、祖父母は、価値の判断や善悪の評価を超越できることがあります。「責任」を負うのは親です。「無責任」な祖父母だからこそ孫のすべてを是認し、ほめ続けられます。ほめられると、子どもはうれしくて、得意になって、自分に自信が持てます。自信があれば、挑戦も再起もできます。



～子どもをほめるテクニック～

- ① 1割しかできなくても、その1割をほめる。
「1割はできたんだね」
「0でなくてよかったね」
「1割でできただけでも頑張ったよ」
- ② その子の以前と比べてほめる。
「前はできなかったのに、今度はできてえらいね」
(きょうだいやよその子と比べない)
- ③ やったときに、確実にほめる。
「今日は茶碗を運んでくれてありがとう」
(やらないときには何も言わない)
- ④ 存在をほめる。(根拠なくほめる)
「おまえはいい子だ」「だいじょうぶ!」
「いてくれるだけでうれしいよ」

♡ 『老婆心』

これは、“不必要なまでに人のことについて気をつかい、世話を焼くこと（新明解国語辞典）” … 『老婆』なんてあんまりですが、祖父母の陥りがちな『甘やかし』を戒める意味もあります。

先が見えるだけに心配で、あれこれやったり言ったりしてしまう『過干渉』『過保護』は、孫の伸びていく力をそぐ場合があるので注意しましょう。『甘やかし』と『甘えさせること』は違います。

♡ ねだられると、買ってやりたくなるけれど・・・

「孫にはつい財布のひもがゆるみがち」という方も多いでしょう。今ほどモノに恵まれない時代、また家計に余裕のないころに子育てをして、後悔が残った祖父母世代は、どうしても孫には不自由がないように買い与えたくなくなってしまいます。「孫の喜ぶ顔が見たい」とねだられるまま買ってしまいうこともあてしょう。

しかし、孫もだんだん大きくなると、高価なものを欲しがるようになります。また、親が買う必要がないと考えているようなものも、祖父母にねだれば買ってもらえると思ってしまうこともあてあります。

欲しいとなるとガマンができず、自己破産に追い込まれたり、悪質商法に引っかけたりする“若者の間でのお金のトラブル”が目立ってきています。『お金のコントロール力』を子どもの時からつけていくために、祖父母の理解や協力があて必要です。

♥ 長寿の時代の「孫育て」

現在、孫を見ることができるのは男性が約59歳以降、女性が55歳以降といわれていますが、平均寿命が80歳を越えた今、孫育てにも大きな変化が起こってきました。以前の寿命はせいぜい孫の学齢止まりでしたので「かわいい、かわいい」と孫のすべてを受容していればよかったです。長寿社会では、孫が思春期を迎えてもますます元気という祖父母が増えています。『教育ジジ・ババ』として、孫を直接指導しようとする祖父母も少なくありません。

けれども、『思春期』は大変な時期です。壮年期の親でさえそれを受け止めていくのは結構困難です。気持ちはあっても、体力・気力で劣る祖父母がその怒濤を受け止めようとするところから来る、孫とのトラブルも目立ってきています。孫を育てるのはあくまでその親だ、ということを忘れることなく、孫との長いつきあいを楽しめたらいいですね。

♥ アラフォーママが増えています

結婚年齢、出産年齢が年々上昇しています。40歳前後で初めて子どもを持つ方も増加して、「アラフォーママ」も増えました。その結果、「70歳代で初孫」という人も増えています。いろいろ手助けしたくても、体力気力が追いつかないのも当然です。「孫育て」に張り切りすぎて、自分が倒れてしまわないように、気をつけましょう。

祖父母の最大の仕事は、 老いていく姿を子どもに見せること。

祖父母との関わりの中で、子どもは人が老いていく過程や、病気、死といったことについても学んでいきます。命を粗末にする若者が増えているのは、身近な死を経験していないからではないでしょうか。何もしなくても、祖父母は「存在しているだけ」で、意味があるのです。



ここが危ない!!あなたの家の危険度チェック

♥ テーブルクロス

端っこが垂れていませんか



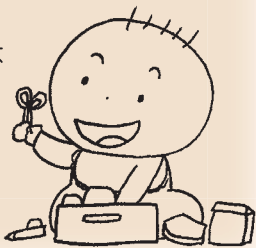
♥ コンセント

コンセントカバーをつけましょう



♥ 引き出しの中

危ないもの・
小さなものは
入ってしま
せんか



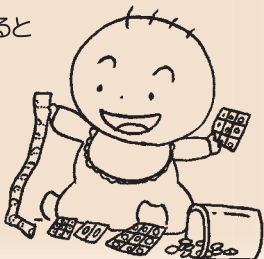
♥ テーブルの上

灰皿やジュースの空き缶が
置いてありませんか



♥ 薬やピーナッツ

口に入れると
危険です



♥ ビニール袋

顔にかかると
窒息します



♥ コードや紐

首に巻くと
自分では
取れません



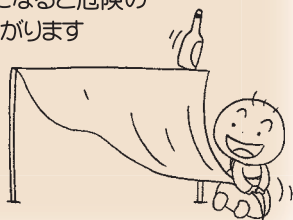
♥ 温風ヒーター

温風ヒーターでの
低温やけどが
起きています



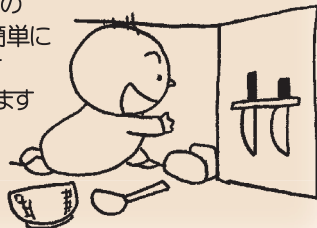
♥ 台所のテーブルクロス

歩くようになると危険の
範囲が広がります



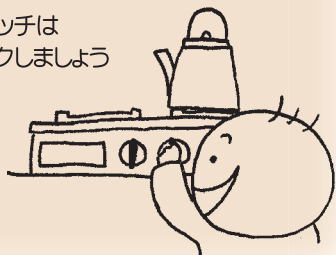
♥ シンクの包丁入れ

シンクの
扉は簡単に
開けて
しまいます



♥ ガス台のスイッチ

スイッチは
ロックしましょう



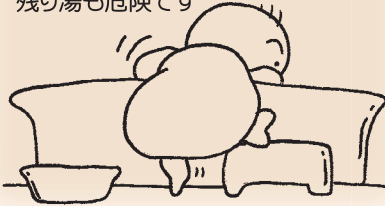
♥ ポット

子どもが届くところには
置けません



♥ バスタブ

残り湯も危険です



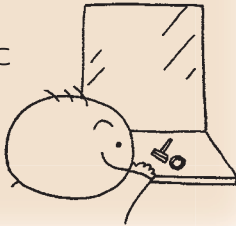
♥ シャワーの熱湯

蛇口で遊ぶのが大好きです



♥ 洗面台の指輪やカミソリ

つい置きっぱなしにしがちです



♥ トイレ

洋式トイレは必ずふたをしましょう



♥ 洗剤

手の届くところには置きません



♥ 階段や縁側

目を離した一瞬に落ちます



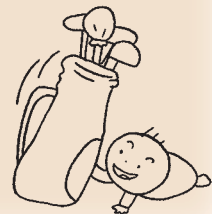
♥ 玄関マット・スリッパ

スリッパはつまずくし、マットはすべります



♥ ゴルフバック

簡単に倒れてきます



子どもの発達と事故

	転落	打撲・けが	熱傷	窒息	事故	溺水
誕生	抱っこのおきに落とす	●	●	●	●	●
3ヶ月 足をバタバタ	● ベッドやソファから転落	●	●	●	●	●
4ヶ月	●	●	●	●	●	●
5ヶ月 触ったものを口の中に	●	●	●	●	●	●
6ヶ月 寝返り	● 歩行器ごとの転落	●	●	●	●	●
7ヶ月 お座り	● 縁側から転落	●	●	●	●	●
8ヶ月 ハイハイ	● いすから転落	●	●	●	●	●
9ヶ月	●	●	●	●	●	●
10ヶ月 つかまり立ち	● 浴槽や洗濯機、便器へ転落	●	●	●	●	●
11ヶ月	● 階段から転落	●	●	●	●	●
1歳 歩行	● 窓やベランダから転落	●	●	●	●	●
2歳 階段の昇降	● 滑り台やブランコから転落	●	●	●	●	●
3歳 高いところからジャンプ	● 戸外の段差でころぶ	●	●	●	●	●

子育て世代に聞きました ～言われて・されてうれしかったこと～

夫の母が「つわりで辛いんだから、アンタが家事をやりなさい」と夫に言ってくれた。

美容院に行ったり、友達と会うときに、子どもを気持ちよく預かってくれた。

結婚記念日に「子どもを預かってあげるから、夫婦で食事をしておいで」と送り出してくれた。

予定日が過ぎても陣痛が来なかったとき、「人それぞれだから」と言ってもらえた。

子どもの1歳の誕生日に夫の母が「毎日大変ね」と、私にもプレゼントをくれた。

私の気が付いていない子どものいいところをみつけて、教えてくれた。

「いい名前をつけたね」と言われて、不安がふっとんだ。

「毎日、よく頑張っているね」と、私をほめてくれた。

近くの人が、子どもの名前を覚えていて、会うと呼びかけてくれた。



～言われて・されて イヤだったこと～

妻の母が何でもやってしまい、出番がなかった。

「離乳食を始めたのなら、ヤクルトくらいはいいだろう」と勝手に飲ませられた。

子どもの口にチューをする。

アレルギーがあるので、「保育園で給食はどうするの。大人になったら困るのに」と、不安になるようなことばかり言われる。

風邪をひいたら、「薄着だから」「人ごみに連れて行ったから」と親のせいにして責められた。

「つわりは気分の問題だから」と言われた。

せっかく考えた名前前に、字画をあれこれ言われた。

子どもに、絶対に着せたくないような服ばかり買って来る。

何かにつけて、「今の母親は楽でいい。私たちの頃は大変だった。」と言われる。

お風呂に入れて貰ったら、自分のおっぱいを吸わせていた。

「一人っ子ではかわいそう」といつも言われる。

「五体満足で丈夫な子であれば、男でも女でもいい」と言われたが、もし障害を持った子だったら、どうしたらいいのか。

親戚の同じ月齢の子と、いつも比較される。

子どもに「ママは怒るから怖いな」と話しかける。

素直に「孫に会いたいから」と言わないで、色々な口実を作って突然やってくる。

「1歳から保育所に預けるなんて、かわいそう」と非難された。

祖父母世代に聞きました ～言われて・されてうれしかったこと～

孫の笑顔に、心から癒される。

友達とお茶をしたいというママのために、子どもを預かってあげたら、「本当に楽しかった」と言ってくれた笑顔が嬉しくて、「いつでもいいよ」と言いたくなくなってしまいました。

孫を連れて公園に行くと、同じような孫連れのじーじフレンド（ばーばフレンド）ができる。

夢中になってアリンコやダンゴムシを眺めている孫に、いつまで付き合っても飽きない。

今の母子手帳や育児書を見せてくれて、昔と違うことを丁寧に説明してくれた。

孫の足の親指の爪が自分と同じ形なのを見て、自分の命が続いていることをしみじみ実感した。



～言われて・されて イヤだったこと～

土日のたびに、親子でご飯を食べに来て、私たちの休日を奪うのはやめて。その上、「孫を見せに来てあげた」とは、少々恩着せがましくないかな。

「赤ん坊が泣いた!笑った!」と、やたらに携帯メールに写真を送ってくること。

私が子どもを見てあげると言うのに、どうしてわざわざ一時保育に預けるのかが理解できない。

孫はかわいいから、にっこり笑って預かるけど…、お守は結構疲れるってことを、親は分かっていない。

「ランドセル
こちらは代金
払うだけ」
何でもかんでも、スポンサーだとあてにするな。

自分の子どものときは何一つ手伝わなかった亭主が、せっせと孫の世話をして、孫がなつくの見ると腹が立つ。

もっと会いたいのになかなか連れて来てくれない。

親はちゃんとしつけをすること。「いただきます・ごちそうさま」の礼儀や、靴を揃えたり新聞を踏んだりしないことは、人として当たり前。


「初孫は 1泊だけでは心が残る 3泊以上は疲れが残る 2泊3日がちょうどいい」・・・でも孫が増えたら、日帰りで十分。


子育て支援(孫育てバージョン)

祖父母世代も利用できる相談窓口

救急に関する相談


 **岐阜県広域災害・救急医療情報システム** (当日の在宅医情報案内)
☎0120-15-3799

 **小児救急電話相談** (子どもの病気、事故への応急処置方法等)
#8000 (携帯電話、プッシュ回線)
☎058-240-4199
相談時間 月~金/18:00~8:00 土、休日、年末年始/8:00~翌朝8:00

 **中毒110番 (財) 日本中毒情報センター**

大 阪	☎072-727-2499	(年中無休 24時間対応)
つ く ば	☎029-852-9999	(年中無休 9時~21時)
タバコ専用	☎072-726-9922	(年中無休 24時間テープ対応)

育児／子育てに関する電話相談

 **子ども・家庭電話相談室** (岐阜県中央子ども相談センター内)
☎0120-76-1152/058-276-4152
相談時間 月曜~金曜日/8:45~21:00 土曜日/8:45~17:00

 **教育相談ほほえみダイヤル**
☎0120-745-070
相談時間 月曜~金曜日/8:30~17:15

祖父母が孫と一緒にいける《サロン》が
あちこちにでき始めました
祖父母向けの《子育て講座》も始まっています
祖父母仲間とのおしゃべりや
今どきの情報収集ができるチャンスです

♥ 池田町：さわやか孫育てサロン

温知児童館

毎月第2・第4水曜日

10時より

(地区公民館にも

出前サロンを

しています)

主催

ゆかいな仲間



♥ 大垣市：孫育てサロン

イオン大垣ショッピング

センター内

第4木曜日

10時より

主催

NPO法人 くすくす



子育て支援(孫育てバージョン)

地域の子育て支援は あなたの力を求めています

「孫育てを手伝ってあげたいのに、孫は遠くに住んでいる」とか、「まだまだ余力はある」という方には、地域の子育てをサポートするという活動をおすすめします。

初めてママになった若い人たちは、「言いようのない不安」や「自分一人が社会から取り残されてしまったような孤独感」に押しつぶされそうになっています。外出しても、子育てにやさしい社会ではありません。子どもが泣けば、「どうして泣かせるの!」という冷たい視線を、痛いように感じます。

少子化は、こういう「子どもがいると大変なことばかり・・・」という気持ちの積み重ねにも原因があるといわれています。あなたの周りの子育て中の方を支えてください。まずは、近くで赤ちゃん連れの人を見たら、「かわいいねえ」「いい子ねえ」という声かけを。「その一言で救われた」という人もあるのですから。そして、少し余力があったら、地域の『子育て支援』に協力をお願いします。

地域の子育て支援は、若い世代を手助けしてくれる、祖父母世代の力を求めています。地域の広報等で探してみてください。次のページのような有償ボランティア活動もあります。

シルバー人材センターの活動内容は市町村によって違います。「育児支援サービス」「家事援助サービス」を実施しているかどうかは、各シルバー人材センターによって違いますので、直接おたずね下さい

ファミリー・サポート・センター

- ぎふファミリー・サポート・センター ☎058-295-3420
- 大垣市ファミリー・サポート・センター ☎0584-78-8181
- 多治見市ファミリ・サポート・センター ☎0572-25-2091
- 関市ファミリ・サポート・センター ☎0575-23-7774
- 中津川市ファミリ・サポート・センター ☎0573-66-1111
- 美濃市コミュニティママ子育てサポート事業 ☎0575-33-1122
- 瑞浪市ファミリ・サポート・センター ☎0572-66-1064
- はしま広域ファミリー・サポート・センター ☎058-391-1228
- 恵那市ファミリ・サポート・センター ☎0573-25-7121
- みのかもファミリ・サポート・センター ☎0574-28-1131
- 土岐市ファミリ・サポート・センター ☎0572-54-1111
- 各務原市ファミリ・サポート・センター ☎058-383-7610
- 可児市ファミリ・サポート・センター ☎0574-62-1111
- 山県市ファミリ・サポート・センター ☎0581-23-2323
- 瑞穂市・本巣市ファミリ・サポート・センター ☎058-326-2236
- 飛騨市ファミリー・サポート・センター ☎0577-73-7464
- 郡上市ファミリ・サポート・センター ☎0575-67-1927
- 下呂市ファミリ・サポート・センター ☎0576-52-2882
- 垂井町コミュニティママ子育てサポート事業 ☎0584-23-3335
- 輪之内町コミュニティママ子育てサポート事業 ☎0584-69-4433
- 池田町コミュニティママ子育てサポート事業 ☎0585-45-3916
- 富加町コミュニティママ子育てサポート事業 ☎0574-54-2108
- 白川町コミュニティママ子育てサポート事業 ☎0574-72-2317
- みたけファミリー・サポート・センター ☎0574-67-5221
- ごうどファミリー・サポート・センター ☎0584-27-8866
- 安八町ファミリー・サポート・センター ☎0584-64-7115

シルバー人材センター

- 岐阜市 ☎058-240-1245
- 大垣地域 ☎0584-74-8080
- 各務原市 ☎058-371-2300
- 多治見市 ☎0572-23-6677
- 美濃加茂市 ☎0574-25-0710
- 高山市 ☎0577-32-8090
- 関市 ☎0575-24-5666
- 可児市 ☎0574-63-5811
- 土岐市 ☎0572-57-3810
- 瑞浪市 ☎0572-68-8744
- 恵那市 ☎0573-25-7788
- 美濃市 ☎0575-33-2526
- 下呂市 ☎0576-52-4870
- 羽島市 ☎058-391-1227
- 関ヶ原町 ☎0584-43-5219
- 飛騨市 ☎0577-73-7386
- 本巣市 ☎058-320-0023
- 山県市 ☎0581-23-0200
- 郡上市 ☎0575-66-1277
- 中津川市 ☎0573-66-8890
- 海津市 ☎0584-65-0468
- 揖斐川町 ☎0585-23-0907
- 大野町 ☎0585-36-1166
- 池田町 ☎0585-45-8123
- 御嵩町 ☎0574-67-6339
- 川辺町 ☎0574-53-5306
- 北方町 ☎058-324-2916
- 養老町 ☎0584-34-3030
- 富加町 ☎0574-55-1077
- 白川町 ☎0574-72-2838
- 瑞穂市 ☎058-327-4411
- 笠松町 ☎058-387-3555
- 坂祝町 ☎0574-28-6488
- 八百津町 ☎0574-43-4462
- 神戸町 ☎0584-27-4105
- 七戸町 ☎0574-46-1559
- 東白川村 ☎0574-78-2059
- 輪之内町 ☎0584-68-1188
- 白川村 ☎05769-6-1311
- 岐南町 ☎058-240-2100

♥ 関市：シルバー本町プラザ「とんてん館」

シルバー人材センターが開いているひろばです。三世代交流をしながら、安心して親子が集えます。「子育てばあばと一緒に遊ぼう」「キッズコーナー」「子育て相談」など、子育て支援のメニューがいっぱいです。

ショッピングしたいときなどに「一時預かり」もしてもらえます。



♥ 御嵩町：子育て支援センター「ぼっぼかん」

子育て中のママも、一般の方々も、サロンでホッとできます。ボランティアグループ「ぼっぼ母べえ」のみなさんが、毎日交代で作ってくれる、できたての手作りおやつが魅力です。

おからクッキーや野菜入り蒸しケーキのほか、季節のお菓子も大好評。レシピも頂けます。



♥ 多治見市：学童保育「げんきの家（昭和校区）」 「みんなの家（池田校区）」

シルバー人材センターが運営している学童保育です。土曜日や振り替え休日、そして春休み夏休みなどは、朝7時半から夜7時まで開設されています。シルバーさんが見守ってくれるあたたかい雰囲気の中で、子どもたちは安心して、遊んだり勉強したりしています。



おわりに

♪なんでこんなに可愛いのかよ／孫という名の宝物♪
そんな歌がありました。少子化の時代、「孫という名の宝物」を前に、ああもしたい、こんなこともしてやりたいという思いで、この小冊子を手にとっていただけたのではないかと思います。自分たちが子育てをしたころとは違う「今どきの子育て」はいかがだったでしょうか。

時代が違うからいろいろ違いがあるだけではありません。祖父母と孫の関係は、親子の関係に比べて年齢差が大きくなります。そのため孫は幾つになっても「若い者」に見えるようです。だからかわいくて、守ってやりたいと思ってしまうのです。

『ぼくは孫』（板橋雅弘・作、西村敏雄・絵、岩崎書店）という絵本には、孫が「なんで（祖父母は）ノパンやママとちがってとつてもぼくにやさしいんだろう」と、疑問に思う場面があります。「なぜだかかわいくてしかたない。だからついあまやかしてしまうんだ」と祖父が答えています。「自分が親の時には、子どもにもっと厳しかった・・・オニみたいだったんだから」と。

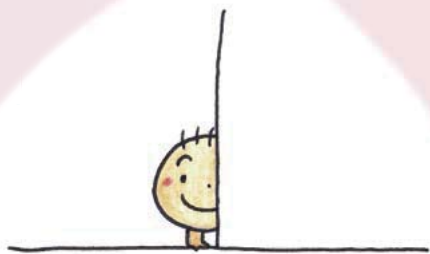
時代も違う、関係性も違うということを心して、孫に接することが大切ではないでしょうか。

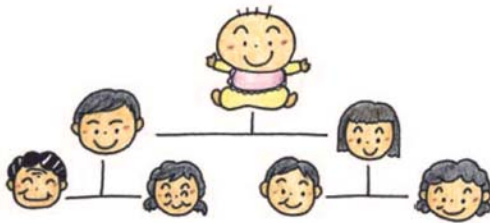
たっぷりかわいがられた孫は、きっとたっぷりかわいがることができる祖父母になるでしょう。そんな祖父母になりたいと思うでしょう。そうやってあなたの「孫育て」への思いは受け継がれていきます。

でも、「かわいがること」は、「何でもやってあげること」ではありません。心からの善意でやったことであっても、もしかしたらそれは、「孫の生きる力」を削いでいたり、親が「“親”になっていく力」を削いでしまっていたりするかもしれないのです。

当たり前前的ことですが、子育ての主役は『親』です。どんな場面でも、子育ての方針を決めるのは『親』であって、『祖父母』ではありません。『祖父母』の役割は、一生懸命子育てをしている『親』たちの、よりよいサポーターになることです。「大変だね」「がんばってるね」「よくやっているよ」という子育ての先輩からの声かけは、親にとって励みになるでしょう。また、「できることは手伝うから、言ってね」という申し出は、必死で子育てをしている親にとって何より心強いサポートになるでしょう。

「孫」を愛しいと思う気持ちは、孫が生きる未来の社会を考えるきっかけにもなると思います。自分の孫も含めて、いま生を受けた幼い子どもたちすべてが「暮らしやすい」社会にしていけるために、祖父母世代に何ができるかを考えていく・・・そんなチャンスも「孫」が与えてくれたものかもしれません。





発 行：岐阜県環境生活部 少子化対策課

岐阜市藪田南 2-1-1 TEL 058-272-8077

制 作：ぎふ子育て支援サポートセンター NPO法人くすくす
(平成22年度 岐阜県委託事業)

イラスト：北川よし子

平成25年12月